

新潟県剣道連会報

kenren 106



令和二年の年頭にあたって

一般財団法人 新潟県剣道連盟 会長 浅原 行雄



明けましておめでとうございます。会員各位におかれましては令和2年の新年をご健勝にお迎えのこととお慶び申し上げます。

令和元年度新役員に変わり、各委員会・会員皆様のご協力いただきながら新剣連の事業を推し進めて参りました。

昨年12月末には、待望の新潟県立武道館（愛称：謙信公武道館）がオープンし、(一財)全日本剣道道場連盟主催・全国道場対抗剣道大会が開催されました。団体戦は剣道の特性である師弟同行の道場対抗戦、個人戦は全国道場少年剣道選手権大会として試合が行われました。この大会の開催が、幼少年剣士の剣道人口の増加に繋がればと願っております。

少子化に伴う剣道人口の減少は、昨年県内各地区で行われた昇段審査会においても、残念ながら中・高生の昇段受験者数減少という形で表れております。なお、本年度は初・二段受験者数の減少は、昨年度と比較すると100人を超えています。今後もこの傾向が続くようですと事業計画に

も影響を及ぼしかねません。

昨年来マスコミ・報道機関の関係者にお願ひし、新聞・雑誌・テレビ等に掲載・放映を頂きました。剣道に触れる場・見てもらう機会をより一層会員の皆様にも創って頂ければと考える次第です。

また、競技力の向上に関しましては、各大会に選抜された出場選手の皆様には、何かと仕事などで稽古、修行の時間が取れず大変かと思いますが、代表選手としての誇りと名誉をかけ、より一層のご努力を期待しております。

各大会参加・各大会開催と運営・各講習会開催と運営等々、各加盟団体にはご理解とご協力をいただき感謝申し上げます。本年もそれ以上にご面倒をお掛けすると思っておりますが、より一層のご協力をお願い致します。

『つらしとて恨みかえすな我れ人に 報い報いてはてしなき世ぞ』30年前に全国スポーツ少年大会で県代表を引率した鹿児島県さつま市金峰山に課外活動で登頂した折、道中の掲示物が目に入りました。

剣道は、有志が集い鍛え競い合い、認め合う、最も大切な修行方法です。自信を持って推し進めて参りましょう。

結びになりますが、本年も事業、予算共に一丸となって会員各位に比べられる様、努めたいと考えております。会員の皆様に、重ねてさらに剣友を募る努力とご協力をお願い申し上げます。

本年が、会員皆様の弥栄と素晴らしい一年となりますように御祈念申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。

新潟県立「謙信公武道館」 ついにオープン!



新潟県剣道連盟 常務理事 赤塚 宰

12月1日(日) 待望の県立武道館が上越市にオープンした。上杉謙信公、生誕の地に立つ「謙信公武道館」である。

この武道場は、北信越最大規模を誇り延べ床面積約1万3千平方メートルの2階建てで、千人を収容できる大道場や小道場、弓道場、相撲場など国際基準に適合した施設が完成した訳である。今後県内競技大会はもちろん国内大会、世界大会などの開催が期待される。

当日は、オープニングイベントが行われ、竣工式典の後花角知事はじめ来賓によるテープカットや内覧会もあり大勢の来館者で賑わった。

この日はシドニー五輪銀メダリスト篠原信一さんのトークショーや空手家高野万優さんの形演武などの後、各武道団体による公開演武が行われた。

新剣連では、高田修道館の子供たちが「木刀による剣道基本稽古法」を、清徳館の子供たちが「日本剣道形」を披露した。日頃の練習の成



果もあり会場からは大きな拍手が送られた。演武終了後には、各武道団体による体験コーナーも設けられ、剣道のコーナーでは防具を着けた両道場の子供たちを元立ちに、竹刀を手に「メン!」「ドー!」と大きな声で楽しそうに体験する子供たちに交じり、大人の姿も見られ大人気であった。また、剣道を紹介するDVDを制作し、モニターを設置して放映した。更に、チラシを印刷し剣道を身近に感じてもらえるよう親子に配布も行った。

謙信公武道館では全国規模の大会としては初めてとなる全国道場連盟による大会が12月22日に開催され熱戦が繰り広げられ、県内の選手が大いに活躍しました。

新剣連では、新年度より全日本選手権大会の予選会などをこの会場で開催する予定としております。

最後に、オープニングイベントにあたり、上越市剣道連盟の池田さん、高嶋先生、國弘先生をはじめとする皆さまに大変ご苦勞をいただきましたこと、そして高田修道館と清徳館の子供たちにも感謝いたします。ありがとうございました。



思い出ホロボロ

国体での奇跡 16年前の手紙 「いつか国体で会える気がします!」が現実に

剣連会報の編集部にある情報が寄せられました。新潟の強化の先生からでした。———あの全日本女子剣道選手権2002年(第41回)、2008年(第47回)と優勝した「坪田祐佳」(現 小津野)選手(岡山県警)と親交があり、どうも北信越代表の新潟県とその岡山県が今回、茨城国体の初戦で対戦するらしい。しかも当日戦う中堅同士はその昔からいずれ対戦するかもしれないねと当時から予感していたというのだ。そして、彼女からの手紙を当時のまま持っている「憧れの先輩」なのだという。これを逃す手はない。現在、新潟医療福祉大学 剣道部顧問・監督であり、錬士六段。小柄な身体にパワー溢れる剣道で北信越大会でチームを4勝で1位代表とした立役者、中島郁子先生にご寄稿いただきました。因みに小津野選手、2008年(第47回)大会は奇しくも村山千夏選手の4連覇を阻んだ方です。

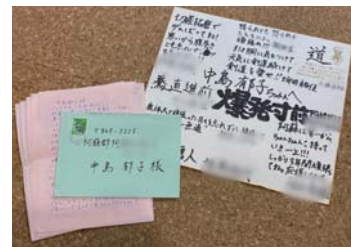


中島 郁子 (右)
(新潟医療福祉大学)

第1章 8月25日、 8月25日、北信越ブロックの成年女子の団体戦は、女

神も味方してくれたと思う。One-teamで戦い、本国体を勝ち取った。その茨城の本戦での出来事は私にとって特別で、ある機会に話題にしたらこちらへの寄稿のお話をいただいた。

団体戦はとにかく楽しい。チーム行動、応援、食事等はもちろん、稽古も試合も楽しい。何より国体出場が決まって、またこのメンバーで戦えることが嬉しかった。北信越の閉会式を終えて帰りの車の後部座席で、この喜びの中ボーっと思い出していたの



は、ある人からの手紙だった。

9月にトーナメントの組み合わせを知ったのは時代を反映してSNS上でのことだった。全国で16チームに残った都道府県だから、どこも当たっても同じ、とはいえ開けてビックリ！ そんなことってあるの？と、思わずうなった。身震いした。こんな奇跡、と思った。女神さまの存在を実感する。

1回戦の相手は、今年の新全国を制した岡山県だった。間違いなく中堅は小津野選手—旧姓坪田さん。全盛期の鹿屋体育大学で、学生時代に全日本女子剣道選手権、インカレ、全日本学生のタイトルを総なめした伝説の人。独特の剣風は衰えを見せない、坪田祐佳さんその人、なんとも…。いや、そこじゃない！

中学2年生の秋、家の都合で奈良から鹿児島県鹿屋市に引っ越した私は、新しい土地で言葉も文化にも馴染めなかった。酷い状況の中、県の東西対抗で見つけて拾ってくださったのが、当時全盛期の鹿屋体育大学剣道部の監督であった故國分國友先生だった。奇跡はここから始まる…。

鹿屋体育大の道場に防具をおいて稽古し、選手の人に可愛がって（本当の意味で！）もらって剣道の楽しさを学んだ私にとって「日本一」はすぐ身近だった。その後の進路も、この流れにのって阿蘇高校へ進学した。

楽しいことばかりではなかった。寮生活では携帯電話はないのでひたすら手紙を書く。イマドキの高校生には想像がつかないだろうが、制限の多い寮生活の中で、手紙は数少ない外界との繋がりがだったし励ましや癒しにもなっていた。

第2章 高校2年生の冬、前年度の全国選抜とインターハイ優勝校の私たちは、熊本県予選の決勝で負けてしまい全国選抜に出場できないことが決まった。言いようのない悔しさと情けなさで、おそらく（記憶にない!?) 愚痴だらけだったに違いない私からの手紙に、最後のインカレを終えて、引退されたばかりの坪田先輩から返事が届いた。

祐佳先輩（そう呼んでいる）の剣道は綺麗で豪快で、とにかくカッコよかった。当時の私には優しくて明るい憧れの大好きな先輩だった。手紙は、達筆な字で便箋6枚、ご自身の経験もストレートに綴られている。エネルギーの溢れる心のこもった手紙を、私は熱くなりながら何回も何回も読み返した。数えきれないほど読んで、文面はほとんど暗記している。

祐佳先輩とは5歳違い。国体に限って言えば、大会で直接「会える（試合ができる）」チャンスは実はそう多くない。

「いつか郁ちゃんと、国体の会場で会える気がします。」って、だから、これが結構難しい。同時に国体に出場し、その時に同じ位置でメンバー入りしていなければならない。

組み合わせも含め、条件がすべて揃わなければ、「会う」ことは叶わない。今回も、まさか試合ができるなんて思いもしていない。最低限の、「会場で会う」だけのことなら何とかかなりそうだが、前後の文面からは、それ以上の予言的な文言…。

試合は、祐佳先輩の得意技を、もう知りすぎるくらいにわかっていたはずなのに、打たれてしまう。でもやっぱり楽しかった。試合が終わって、祐佳先輩に手紙をみせた。廊下で先輩は大笑いしながら「郁ちゃん、大きくなって！」と言われてしまった。私はようやく連絡先を聞くことができたが、もう手紙は書かないかもしれない。でも、次の出会いはいつどの大会になるだろう。剣道を続けてきて、本当に良かったと思えた瞬間だった。

プロフィール

奈良県生駒市出身、鹿児島県鹿屋市の中学を卒業。

熊本県立阿蘇高等学校 卒業

浜松大学 健康プロデュース学部 卒業

浜松大学大学院修士課程 臨床心理学専攻 修了

筑波大学大学院博士後期課程 人間総合科学研究科 満期退学

新潟医療福祉大学 健康スポーツ学科 助教 (2015年4月～)

専門：臨床心理学、スポーツ心理学

資格：臨床心理士、認定スポーツカウンセラー

現在、様々な競技・レベル（高校生～プロフェッショナル）のアスリート個人やチームに、心の専門家として関わっている。

趣味：旅行、スキー、ダイビング

もともと、父が佐渡島の出身で、新潟には幼少期から毎年来ており、大好きな土地です。どうぞ、よろしく願いいたします。

剣歴

奈良県習心館道場出身

現在：新潟医療福祉大学 剣道部顧問・監督、錬士六段

高校 九州選抜大会 団体優勝

全国高校総体 団体ベスト8

大学 東海女子学生剣道選手権大会 個人優勝

東海女子学生剣道優勝大会 団体2位

全日本女子学生剣道選手権大会 個人ベスト16

全日本女子学生剣道優勝大会 団体ベスト8

全日本女子学生剣道東西対抗試合 西軍代表社会人

全日本都道府県対抗女子剣道優勝大会（奈良県代表） 出場

全国教職員剣道大会（新潟県代表） 出場

国民体育大会成年女子 出場



北信越（ミニ国体）優勝 石川監督と

編集部より 中島先生、今後とも親交を深めて新潟県にいい風吹かせてください。そしていつか新潟でお2人の模範稽古を是非お願いします！